新しい器にふさわしい学院の将来計画を

校友会　山桜会　会長　川原 俊明

はじめに

4月、追手門学院では、各学校・園の入学式が挙行されました。桜の咲き誇る季節、新入生たちは、それぞれ希望に目を輝かせていました。

昨年11月、記念式典が執り行われた学院創立120周年記念として、各学校・園の校舎が新しく建て替えられました。今年の新入生からは、恵まれた環境のもとで充実した学園生活を送ることでしょう。

反面、私たち卒業生にとって、旧校舎の解体はいささか寂しい限りではありますが、これも、母校発展のためには、やむを得ないのでしょう。

卒業生の皆さん、ぜひ、この機会に学院にお立ち寄りください。発展を遂げるわが母校を、この目で確かめていただけると思います。

新しい器

教育現場では、少子化現象が叫ばれて久しくなりました。これに伴い、公私を問わず、いずれの学校経営も厳しい時代に直面しています。

学校間における学生生徒の獲得競争は激化しています。学院も、生き残りをかけ、まさにサバイバルゲームが始まっています。

わが母校では、120年の歴史をふまえ、次の発展の礎として、各学校・園に新校舎を建設したのでした。

新しい器を整え、学院の教育理念を具現化させて、今後の飛躍に備えるべきです。

学院の将来計画

卒業生にとって、母校の発展は、とても大事なことです。

母校の存在は、卒業生の心のよりどころです。学院の未来はどこにあるのか。どのような学院であるべきか。私たちは、卒業生の立場から、学院の未来に大きな関心を寄せています。

学生生徒は、卒業してしまえば、母校と無関係になるのではありません。むしろ、追手門学院の卒業生として社会に飛び出し、社会で待ち受けている多くの同窓生と同じ仲間になります。

私たち卒業生は、それぞれの背中に、追手門学院の看板を一生背負って生きているのです。その意味で、卒業生はオール追手門の仲間です。

では、学校法人追手門学院の未来を決めるのは誰か。

私たち卒業生は、母校の未来に関わりを持てるのでしょうか。

母校には、高島鞆之助中将という創立者が存在します。しかし、学院設立にあたり、特定の出資者がいたわけではありません。学院の運営は、あくまで学院理事会に委ねられています。しかし、同時に、母校を発展させるのは、卒業生の活躍、社会での活動にかかっています。学院が排出した多くの卒業生の努力や社会での評価が、今度は、学院の評価につながってくるのです。

私たちの先輩の一人、早稲田大学理工学術院教授で、学院理事でもある竜田邦明先生（小学校64期　大手前中高7期）が、近時、最高の学術賞である日本学士院賞を受賞されました。めざましいご活躍ぶりです。

さらには、豊竹咲大夫さん（小学校68期　大手前中高11期）。文楽大夫の最高位といわれる「切場語り」に昇格されました。

また、「鴨川ホルモー」の小説・映画で有名なボイルドエッグズ新人賞受賞作家、万城目（まきめ）学さん（小学校99期）も、大ブレーク中です。

追手門学院がさらに発展するためには、「独立自彊　社会有為」の教育理念を踏まえたうえ、あらゆる場面での積極展開が必要となります。そのためには、「追手門学院」を前面に出すべきでしょう。そして、「学院の個性」を積極的に前面に引き出し、他学にないものを追い求める。魅力ある学院をアピールする。これによって、他学との差別化をはかり、学院の発展を期すべきだと思います。

学院では、今年に入り、将来計画推進委員会が発足しました。卒業生からも、多くの建設的なご意見をお寄せいただきたいと思います。

山桜会の未来像

山桜会では、今期、「開かれた山桜会」を標榜し同窓会活動を続けています。

内に向かっては、理事会・評議員会の活性化をはかり、より多くの会員参加を経て、同窓会活動の積極的な展開をめざします。

4月に開催された山桜会評議員会は、久しぶりに茨木の地で開催されました。

今まで、報告集会形式が中心になっていた評議員会も、少人数でのグループデイスカッション方式を取り入れ、参加された評議員の皆様の貴重なご意見を、グループごとに発表していただき、一人一人のご意見を吸い上げる体制に生まれ変わりました。これも、「開かれた山桜会」実現に向けての改革の一歩です。

当日、茨木中高の新校舎を見学させていただきました。

宮本直和先生の、学院の歴史講話をふまえて、新設された将軍山会館を見学させていただきました。大学校友会からは、参加者全員に、宮本輝（大学1期）の作品「青が散る」文庫本を贈呈いただきました。大いに感謝いたします。

また、山桜会は、外に向かっても、大学校友会をはじめ、追手門関係団体との関係を強化します。学院との連係プレーのもとで、母校改革支援活動をさらに推し進めていくつもりです。一人でも多くの会員の皆様方の積極的なご参加のもとで、ともに、学院の未来を築きましょう。

山桜会活動が、ますます、楽しく充実した同窓会でありたいと願っています。